

チベタン・チルドレンズ・プロジェクト

2014年 運営報告書



2014 年決算の解説

2014 年の決算は前頁の通りです。当期収入合計 5,039,124 円で、これに前期の繰越金が加わり、運営に充分な財源を確保できました。当期支出の合計は 4,182,500 円、当期の収支は 856,624 円の黒字となりました。ご支援いただきました皆様に、改めましてこの場をお借りして御礼申し上げます。

現在 16 名の児童をお預りし、生活と教育全般にわたって養育しているため、クンデ・ハウス事業が TCP の支出の 90% を占めます。チベット予防医学室は、今後の活動を見据え、必要な投資を例年より積極的に行なったために支出が増えました。収入の部門においては、TCP へ還元できる収益をあげられるようになってきています。

ネパール現地事務所については、本年はチベット予防医学室で取り扱う薬剤の輸出入ライセンスを新たに取得したために、大幅

に支出が増えました。その他の支出は、プロジェクトに対する税金、及びネパール産業省の監査費用とそのために弁護士に依頼した書類製作費です。東京事務所の支出は、ネパール現地からの依頼で購入した衣類、日用品などの支援物資、プロバイダの契約更新費、国内、国外郵便送料と封筒などの資材代金です。

2014 年の会計は、黒字で終えることが出来ました。ご支援を頂きました皆様に、改めて御礼を申し上げます。しかしながら、長らく続いているネパールの不安定な政治状況や、これに付随する形で毎年上がり続ける物価を思うと、今後も堅実な運営姿勢が必須であると考えております。また長期的にはネパールでの不動産の取得も視野に入れて運営を考えておりますので、今後も会計ごとに着実に、黒字を積み重ねて行けるように努力をして参りたいと思います。

2014 年運営の報告

2014 年の運営を振り返り、解説を加えたいと思います。

1 年間の主な出来事を右にまとめてみました。

2014 年は事件と呼ぶべき大きな出来事もなく、平穏に過ごすことが出来た 1 年でした。時系列順に、出来事をご報告させて頂きました。

◆ チベット予防医学室移転

2 月に今期の目標と定めていたチベット予防医学室の移転を実施致しました。スワヤンブナート地区の開発計画に伴う取り壊し地区に、最初の診療所が取り込まれたため、致し方なくその場所での運営を断念し、クンデ・ハウスと診療所を一体化させましたが、やや中心部から離れた立地のため、患者様の通院に支障をきたしていました。地域に還元できる医療施設を目指して、再び、中心部への移転を模索しておりましたが、ご縁を得てスワヤンブナートの正面から徒歩 3 分の好立地に診療所を移転させる事が出来ました。これにより順調に患者数が伸び、現在では平均 5.5 名 / 日の患者様を診察

2014 年の主な出来事

- | | |
|------|--------------|
| 2 月 | チベット予防医学室 移転 |
| 3 月 | ベンバ・ヤンチェン入居 |
| 4 月 | 子ども達全員が進級 |
| 6 月 | 上水道の整備が決定 |
| 9 月 | 剣道のお稽古開始 |
| 10 月 | ポカラ旅行 |

させて頂いております。診察時間はチベット医学の慣例に従い、脈の整う早朝のみとさせて頂いておりますので、5.5 名 / 日という数字は、ほどほどの忙しさという状況です。

診察にお越し下さる地元の方の比率は、チベット人 7 割、ネパール人 3 割です。このうち経済的にお支払いが困難なチベット難民の方々には、診察、薬の処方を無料でご提供させて頂いております。現在、チベット人の患者さんの約半数が無料診療です。また外国人（ネパール国籍、チベット難民以外）の診察も徐々に口コミで広がり、毎月平均して約 10 名の患者様に受診を頂いております。

販売も順調で、アムチの製作によるチベット医学関連の製品、アムチの指導を受けた子どもたちが制作したお香などの売り上げも伸びてきました。外国人の診察収入とチベット医学関連商品の販売による収入は、447,138 円となりました。

引っ越しに伴い、薬湯の施設の再整備を考えておりましたが、工事に 10 万円程度の費用が掛かる事から、本年の実施は見合わせました。薬湯施設は地元の方々、特に冬に寒い行場で修業をされる僧侶の方には好評ですので、来年度以降、予算と状況により、工事を執り行いたいと思います。



今後の運営を見通し、チベット予防医学室に関連して、本年は大きな予算の執行を2件行いました。1件は、薬の原材料の輸出入ライセンスの取得です。ライセンスの取得には多額の費用が掛かるため、これまでには必要に応じてご縁のある方のライセンス名で必要書類の製作を行って参りましたが、今年に入って審査が厳しくなった事に加えて、申請料が急激に値上がりしている実態を踏まえて、ライセンスの取得を行うことにいたしました。取得に関する資料製作費などを含め174,560円を支出いたしました（ライセンスの権利はTCPに帰属するため、会計上はTCP現地事務所からの支出としております）。



2件目は製粉機の購入です。これまでチベット薬の原料の粉砕のため、アムチが個人的に購入した古い機械で製薬の作業を行って参りましたが、調子の悪かった機械がついに寿命を迎きました。様々な会社の製粉機をコストとスペックの面から検討し、最終的にインド製の製粉機を81,825円にて購入させて頂きました。これにより製薬作業は格段に速くなり、また粉砕されたパウダーがこれまでとは比較にならないほどキメ細やかになりました。皆様のご支援で良い製粉機が購入でき、さらに質の高い製薬作業が使えるようになりました。



営業の開始から6年を経て、チベット予防医学室も収益をあげられるようになりました。これもひとえに、皆様の支援による先行投資を行うことが出来たことによります。この場をお借りして改めてご支援に御礼を申し上げます。



♪ ペンバ・ヤンチェン入居

近年、ネパール政府の媚中外交により、チベットからの亡命が非常に困難になりました。受け入れは亡命者のみと限定しているクンデ・ハウスでは今後、お引き取りする児童の数の増加は見込まれないと考えておりましたが、3月に新しく小さなペンバ・ヤンチェン（推定3歳）が入居することになりました。クンデ・ハウスにお引き取りする子どものほとんどがそうですが、最初はあまりに体が小さいため心配しましたが、健康に問題はなく、利発で活発です。

また大変ありがとうございます。里親さんも入居後すぐに決定し、あたたかいサポートを頂いております。すぐに入学の手続きを取り、学校にも通うことが出来ました。



♪ 進級（学校生活、その他の学習）

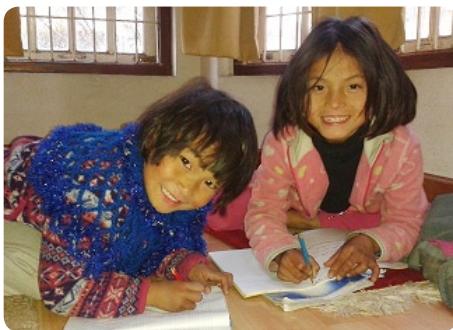
学校に対する様々な不信感から、残念ながら転校を決断せざるを得ない状況になり（詳しい内容は、昨年の運営報告書をご参照下さい）、より良い学習環境を求めて、子ども達をバヌバクタスクールに転校させてから、早くも1年9ヶ月が経過しました。期待以上の学習内容に、思い切った転校の決断は正しかったと考えております。

ネパールの一般的な学校がどこもそうであるように、バヌバクタスクールも進級に対しては、厳しいテストが課されます。課目によっては追試が必要だった生徒もいましたが、クンデ・ハウスは無事に全員が新しい学年に進級できました。またイシ・パドゥンは成績優秀により、1学年を飛び越えての進級となりました。

学校生活は楽しいとの事で、実に子ども達は生き生きとしています。演劇や音楽などの工夫に満ちた新しい教科で、様々な刺激を受けています。また多くの民族、宗教の生徒が学ぶ場に身を置くことによって、自らのチベット人というアイデンティティーについてより深く考えるようになりました。

学校生活全般、服装に及ぶまで厳しい指導を受けるため、保護者の学校への呼び出しも頻繁ですが、今後も学校と連携をして、人格も知恵も兼ね備えた、社会に貢献できるチベット人の育成を目標に、子ども達の教育には力を注いで参ります。

学校外では、エリ先生の熱心な日本語指導により、子ども達の日本語能力が徐々に伸びてきています。日本語指導に加えて、日本の歌の合唱をご指導頂いたり、定期的な日本語能力試験で実力を測ったり、日本語による交換日記をして頂いたり、あらゆる工夫を凝らして日本語学習に取り組んで頂いています。



✿ 上水道の整備

クンデ・ハウスのある地区に6月、上水道の整備、敷設が決定しました。これに先立つ2月、子ども達全員が激しい体調不良で精密検査を受ける事態が発生しました。一時は結核なども疑われましたが、検査の結果、水質の汚染が原因の寄生虫に数名が感染していました。インド製の浄水器を設置するなど、考えられる対策をこれまで行つてきましたが、不十分だった様です。このような事もあり、少しでもきれいで安全な上水の供給が求められましたが、ついにその順番が回つてきました。

公共道路から各敷地への上水の引き込み設備に関しては、個人負担の工事です。本来、クンデ・ハウスは賃貸のため、日本的な感覚で言えば、全て設備工事は大家さんの負担と思うところですが、海外在住の大家さんにとっては必ずしも敷設することを必須とは思われなった様で、話し合いの結果、公共の道路からクンデ・ハウスの門までは大家さんが、それ以後、家までの部分をTCPが負担し、引き込みを行いました。

きれいな水が水道から出ることは大変画期的な事ですが、残念ながら水道の通水は、現在のところ週2回1時間のみです。上水だけでは水が足りず、月に1~2回の割合で給水車から600ℓ、Rs1,800で水を買っています。貴重な上水は、料理と手洗い、歯磨きのみに使用し、その他はこれまで通り井戸水を使用しています。多少、環境が改善されたため、水を原因とする病気への感染リスクが減った様に思います。

✿ 剣道のお稽古開始

7月から、日本の援助で建設されたカトマンズ市内の武道場で、最年少のツェンを除くクンデ・ハウスの男子が、剣道を習い始めました。

カトマンズに大変立派な武道館があることを、ご存じない方も多くいらっしゃると思います。約12年前にカトマンズの姉妹都市の活動により、外務省「草の根文化無償資金協力」の支援で建設された武道館は、その竣工の際、JICAから剣道の指導員が派遣されました。2年間のJICAの指導員派遣の任期満了後は、日本人の篤志により、6年にわたって個人的な指導が続けられ、その時の教え子である20代の若いネパール人2名が現在指導員として、土曜を除く毎日17時から19時まで、剣道の指導を行っています。剣道以外には、柔道、空手のクラスもあります。

道場に通い始めてからの男子の変化は目覚ましいものがあり、剣道のお稽古行きたさに、帰宅後、誰もが我先にと宿題を済ませるようになりました。お稽古に通う時間が加わって、さらに子ども達の



スケジュールが忙しくなったため、だらだらした時間を過ごさなくなりました。それが練習や仮試合の中で自分に自信をつけ、活き活きとしています。

道場への送迎が車でないと不可能なため、ご近所の方にお願いして往復 700Rs にて、道場への送り迎えをお願いしています。送迎料金の事もあり、現在、通常は隔日のお稽古となっています。

活き活きと剣道に通う男子の変化を見た女子達からも、武道館に通いたいとの希望が出たため、まずは女児のうち柔軟性に優れたヌモとチュズムを、同じ道場の新体操教室に通わせることにしました。

こちらは公の講座ではなく、個人の先生が運営しておられる教室なので授業料が高いため、現在は 2 名だけが通っています。

✿ ポカラ旅行

10月の秋休みに、日本からお越しいただいたサポーター様にもお手伝い頂いて、宿泊を含んだ旅行に、初めて出掛けました。2泊3日のポカラ旅行は、思い出がたくさん出来た旅であるのみならず、非日常の公共の場で、一人一人が規律と責任を持って行動することが実践でき、旅を終えた後に子ども達が、格段に成長して自信にあふれた表情をし出したことが大変印象的でした。この変化は、全くスタッフにとっては予想外でした。

正直なところこれまで、「難民である」という事実を常に念頭に置き、あらゆる面において、目立たぬ様に、出過ぎぬ様にと思ってケンデ・ハウスを運営して参りました。2泊のポカラ旅行も大変に贅沢に思えて、実行の決断をするまでには時間を要しました。

しかし旅行後の子ども達の変化を目にする、「難民である」という遠慮によって子ども達の貴重な体験の機会を逃すことは、大きな損失であると思えるようになりました。今後は、周囲の状況に

女子からも剣道を習いたいとの要望が強く出ていますが、現在は予算との兼ね合いで、これ以上お稽古ごとに通うための費用を捻出すべきかどうか、大変悩ましいところです。特に送迎に費用が掛かりすぎるため、次年度は車の購入なども検討しながら、出来る限り武道をはじめとする「身体を鍛錬すると同時に、礼儀や集団での振る舞いも身に付く」お稽古に、積極的に参加させたいと思います。



配慮しながらも、様々な体験を通して、社会性と自立心が育まれるような機会を、子ども達に準備したいと考えております。

子ども達の変化のほかにも、旅行後、スタッフが驚いたことがもう一つありました。旅行のご報告をブログにアップした直後、複数の里親さんから「残念!」という反応が寄せられたことです。

ケンデ・ハウスは常々、支援慣れした難民を作らないために、持ち込みの物資やプレゼントを厳しく制限させて頂いております。この趣旨は里親さん方もよくご理解を頂いていて、ご協力を得ております。そんな厳しい制限のため、子ども達を喜ばせる物質的なプレゼントが自由にできない里親さんから「体験をプレゼントするというパターンがあったのに、それに気付かず残念」というメールが複数寄せられたのでした。毎月の高額な会費の納付に加えて、いつも子ども達をあたたかく見守り、サポートして下さる里親さん達の熱意に、心より感謝申し上げます。



♪ その他のご報告

かながわ財団「かながわ民際協力金」の平成25年度助成団体に選出され、「チベット難民の医学生と青年への自立支援プロジェクト」を2013年の秋から実施して参りました。この取り組みに継続する形で4月、ボンポ・ゴンパの医学校の生徒たちに、医療英語を指導する取り組みを行いました。

日本の大学の医学部で、医療英語を教えておられる日本在住のオーストラリア人サポーター様のご提案により実現しました。このサポーター様ご自身が100%ボランティアとしてネパールに渡り、2週間にわたり熱心にご指導くださいました。ネイティブから直接英語を習う機会に恵まれない学生たちにとって、大変刺激的で有意義な講座になりました。また、あまり触れる事がない西洋医学の専門書や教材もご寄付頂き、チベット医学とは異なる身体の捉え方は、学生たちにとって新鮮な驚きであった様です。



ヒマラヤ眼科耳鼻科医療を支援する会の理事長であり、チミの里親をお引き受け下さっている眼科医の松山加耶子先生が、2月に医学生病院実習とチャリティーイベントのためにネパールにお越しになり、その際、帝国劇場等でのミュージカルで活躍されている出演者の方々と、クンデ・ハウスをご訪問頂きました。プロの歌声の



迫力は子ども達に大きなインパクトを与え、その後、クンデ・ハウスでは歌のリサイタルや発表会ごっこが流行ったほどです。ネパールにおいてはなかなか体験する事が難しいこのような機会を与えて下さり、子ども達にいろいろな世界があることを見せて下さって、大変ありがたい機会でした。

迫力は子ども達に大きなインパクトを与え、その後、クンデ・ハウスでは歌のリサイタルや発表会ごっこが流行ったほどです。ネパールにおいてはなかなか体験する

11月より、アチャ・イシがクンデ・ハウスの仕事の傍ら、美容学校に通い始めました。もともと美容に強い関心があり、スキルを磨きたいとの希望でしたので、授業料をTCPで負担し通学を始めました。ネパールは決して経済的に豊かな状況ではありませんが、女性の美容に対する関心は高く、手軽なエステのようなサロンが流行っています。

若くて頭の回転が速く、非常に細やかな気遣いのできるアチャ・イシは、チベットの教育関連の場所から引き抜きの話が時々あります。多くはTCPよりも高待遇な話ですが、アチャ・イシは責任

6月から約2ヶ月、ネパールに滞在されたサポーター様により、毎朝5時から子ども達へのそろばん教室を開催して頂きました。そろばんに対する興味の差は多少ありますが、そろばんの有用性を理解し、操作の基本を習得できました。



その他にも、シンガポール在住のサポーター様のご提案により、子ども達への英語の通信添削を始めて頂くことになりました。クンデ・ハウスの子ども達の学年と英語力に見合った教材と問題をサポーターさんがご準備下さり、ネパールにお送り頂いて、回答を添削下さるというシステムを年末より試験的に始めさせて頂きました。問題と解答のやり取りには、国際郵便を使用するため、その受け取りや発送も、社会勉強の一つとして子ども達が体験する事になりました。

このほかにも、短期のご訪問日程の間に、楽器を持ち込んで歌を教えてくださったり、児童絵画教室の先生をされている里親さんが、子ども達の絵を指導して下さったりしました。



サポーター様がご自身で企画し、得意な分野のスキルで力を貸しくださる事が多いのも、TCPの1つの特徴です。特に子ども達の教育に於いては、惜しみなくご協力を頂き、本当に有難いことです。ご支援くださる熱意に、心より感謝を申し上げます。



感からクンデ・ハウスの仕事を継続してくれています。多くはない給料でも、誠実に仕事をこなしてくれる彼女の未来が明るいものになるように、これからも出来る支援は行い、お互いに良い関係性を永く保ちたいと考えています。



12月に入って、クラウドファウンディング「READY FOR」より、海外特集への参加のお声掛けを頂きました。「世界の明日を考えよう」と題し、海外で支援事業を展開する組織を応援するために組まれた特別企画です。READY FORは2011年から現在までに、1,600件のプロジェクトに対して約8億4千万円の支援を実現した組織です。



今回の特集に対しては、通常17%の手数料を15%で行うという条件で、何度か打診を頂きましたが、現段階で特別に予算を組んで早急に取り組む事案がないため、今回は見合わせる事としました。

毎年、複数のメディアから取材のお申込みを頂きますが、2014年はテレビ取材の依頼2件を頂きました。1件はテレビ東京、もう1件はNHKの地方局です。メディアに取り上げられることは、飛躍的に知名度を上げると予想されますが、同時にチベット支援という性質上、様々なリスクも考えられます。そのためTCPとしては、基本的には露出に関しては慎重な姿勢を貫いています。取材する側と十分な信頼関係が構築でき、チベット人社会にとって明らかに利益があると判断される場合にのみ、お受けしたいと考えています。



本年は、3件の大学生のボランティアのお申し込みがありました。また学術研究の調査対象としての現地調査のお申し込みも2件頂きましたが、いずれもこれまでの受け入れ時の経験から、TCPにメリットがないと判断し、お断りをいたしました。チベット文化とチベット人を取り巻く環境を少しでも多くの方々に知っていただくため、これまで多少の無理をしても受け入れる体制を敷いてきましたが、スタッフの数が足りない現状に加え、電気、水道が不十分なネパールの環境に対するフォローをスタッフに求められたり、雑事を当然のように依頼されることが多々あり対処に苦慮するため、一切のボランティア、調査をお断りしました。今後もしばらく、あしからずこのような対応とさせて頂きたいと思います。



2014年12月末現在のサポーター会員は、里親サポーター16名、月間サポーター33名、年間サポーター14名です。皆様のご支援に、改めて感謝を申し上げます。



2014年のネパール政府の発表による物価の上昇率は10.9%ですが、生活者の実感としてはこれ以上に感じています。具体的な例で言うと、1月には1個Rs8であった玉子が、12月にはRs15になりました。食事の材料としてよく使用する穀類や豆類も、1年で約1.5倍弱まで値上がりしました。エネルギーに関しては値上がりは無いものの、ガスをインドから陸路で運んでいるため、ゼネストの頻発で輸送ルートが断たれた場合には、急速に数が不足し、何時間並んでも物がないために買えない状況が多々ありました。為替はTCPの1年間の円→ネパールルピーの換金レートの平均が、2013年は0.98に対して、2014年は0.92です。

チベット予防医学室のアムチ、現地統括責任者の加藤ちあきに関しては、TCPより給与は支給しておりません。また東京事務所も同様に、活動経費も自己負担の無償ボランティアで運営しております。これは各人の「TCPは一切が菩薩行」という仏教的な動機によるものです。

無償であっても運営自体には大きな責任を負って仕事をしておりますので、よりよい運営のためにも、ぜひ忌憚のないご意見をお寄せ下さい。TCPは熱意で行動することから始まった組織であり、スタッフは社会福祉事業に特化したスキルを持っている訳ではありません。そのため至らない部分も多いと思います。今後もぜひ、皆様のご指導を賜りたいと思っております。



2015 年の運営指針

2015 年の運営は、下記の項目に力を入れたいと思います。

- ① 安定した運営の継続
- ② 子ども達の教育と体験の充実

①について。長らくネパールでは政治が安定しない状況が続き、その影響もあって毎年物価は上昇し、セネストも相変わらず頻発しています。ネパール全体に、先行きが見えないことによる不安感、閉塞感が満ちています。チベット難民に対しては、一昨年に起こったボダナートでのチベット僧の抗議の焼身自殺以来、不当な逮捕、罪状が確定しないままの長期の投獄、突然の財産の没収など、著しく人権を侵した行為が平然と行われるようになりました。ネパール政府はここ数年、大いに中国に配慮した外交姿勢を明確にし、このためチベット人の亡命は、現在では非常に困難になりました。

経済的、環境的要素から、2015 年は昨年に引き続き、拡大路線を取らず基礎をしっかりと固め、地道な運営に徹したいと思います。また、しっかりと運営基盤を固めるためにも、ここ数年、毎年の目標としていることですが、チベット人の優秀な人材を確保し、人材不足を解消すべくスタッフを迎える努力を引き続き行って参ります。

②しかしこのような状況の中であっても、子ども達の教育、優れた人格を形成するために必要な体験は、積極的に行いたいと考えております。祖国も資源もないチベットにとって、国としての財産は優秀な人材のみです。難民にとって、一番大きく未来を変えるカギも教育の充実にあります。子ども達がそれぞれの人生を充実したものになると同時に、チベットの未来を明るくする希望となれるように、教育には惜しみなく取り組みたいと考えます。



また、以下は 2015 年の目標と定めませんが、具体的な検討に入り、必要に応じて予算の執行をしたいと思います。

1つはケンデ・ハウスの増築です。TCP は孤児院としての運営許可をネパール政府から受けており、年に一度、教育省の監査を受けております。本来、ネパール教育省は孤児院の施設規定に「男女の部屋を別棟にすること」を定めております。これに関しては、毎年是正の注意は受けておりますが、これまで子ども達の年齢が小さい事、男女の寝室をフロア別で分けている事などに免じて、強制力のある指導は受けずしております。

男女別棟が実現できるような、さらに広い物件を探して引っ越すという事は、孤児院であるという事だけで物件の賃貸が難しい現状に加えて、ここ数年、賃料がうなぎ上りで貸し手が有利な状況を考えると、非常に難しいです。現在の建物のオーナーは、経済的に裕福な海外在住のネパール人であり、長期の契約にも応じて頂き、様々な入居時の契約が履行されるという、これまでにない安心感と信頼感があります。そのためこの関係性を維持しつつ、プレハブのような簡易な建物の増築により、男子用の寝室を作ることで対応したいと考えております。



実際に 2014 年に一度、建物の見積もりを取ったことがあります。やはり大きな金額になるため、慎重に実行のタイミングを検討しようと見合せましたが、年長女子が思春期に入る時期でもあり、法的な規制も考えて、実行に向けて具体的に取り組む時期が来ていると考えております。



2 つめは、剣道のお稽古に関連してお話ししたのですが、車の購入を検討したいと考えております。現在、子ども達の剣道と体操の稽古は、送迎の関係上、どうしても通える人数に制限が出来ます。車があれば送迎の制限が緩和されるため、人数も、道場に通う回数も、増やすことが出来ます。それと同時に、燃料費、維持費も発生しますので、長期的な費用対効果をよく検討した上で、必要と判断した場合は購入したいと考えております。

上記、2 点につきまして、2015 年は予算の執行を検討しますので大きな支出となります、ご理解を頂きたいと思います。

毎年、収支報告をお願いをしております、サポーター様のご見学の際の物資の持ち込みに関して、本年も皆様のご理解とご協力を賜り、ありがとうございました。新しくご入会を頂きましたサポーター様もおられますので、今一度、内容についてご案内をさせて頂きます。

TCP 現地施設をご訪問の際には、ご連絡を頂きました段階で個別にお伝えをしておりますが、持ち込む物資について必ずご相談ください。またご相談の上で決めたもの以外は、どのような些細なものでも決してお持込にならないでください。



特にクンデ・ハウスでは、持込の物資や子ども達へのプレゼントを厳しく規制させていただいております。まず第一に、「訪問者がある=何かいいものがもらえる」このような条件付けを、子

ども達にさせないための規制であることをご理解ください。

また、まだまだ物質的な豊かさにおいては日本とは比較にならないネパールでは、日本から持ち込んだほんのちょっとしたものがとても目を引いたりします。数年前から子どもの誘拐（人身売買、移植用臓器の摘出が目的です）が発生している事もあって、子ども達の安全を確保するためには、目立たぬ事、地元並みである事がとても大事なのです。

また、これはとても微妙な問題なのですが、何かことが起こったときに、そのストレスの矛先がマイノリティーや、弱い立場の人に向かう場合があります。TCPの現地施設は、加藤を除けば全員がチベット亡命者です。国を逃れてきて、ネパールに間借りさせていただいている身分



です。ネパール国民にとっては、言わば「よそ者」なのです。ここ数年、ネパール国内の政治が混乱し物価も急上昇して、国民の生活は目に見えて苦しくなっています。このような状況では、いくら寛容で、争いを好まない性格のネパールの人達であっても外国の支援で生活している難民の生活のほうが恵まれた暮らしをしていてはよい思いを抱かないのも、当然のことと言えます。

このような理由から、TCPは「地元並みであること」「地元の方々との良好な関係性を作る取り組み」に力を注ぎ、努力と注意を払って運営をしております。

ご訪問いただく皆様には、いろいろなお土産を持って行って子ども達を喜ばせたいという思いがおありかと思うのですが、子ども達自身の安全のために、持ち込み物資に関して事務局が厳しく規制させていただく事を、どうぞご理解を頂き、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

またお菓子などのいわゆる消えモノや学習に関する道具も同様です。良かれと思ってお持込を頂いても、まったく環境も状況も違うネパールでは、それが思わぬ結果を招いたりします。どうぞ、必ず事前にご相談を頂き、TCPの運営方針にご協力を願いいたします。



ご見学のお申し込みの増加に伴い、2014年は会員サポーター様以外のご見学を、全面的にお断りする方針とさせて頂き、実施致しました。引き続き、2015年も同様の方針とさせて頂きます。

少しでもチベット人社会の現状を知っていただければとの思いから、これまでではサポーター様以外のご見学も受け入れて参りましたが、物資の持ち込みなどに関して正しくご理解が頂けず、またご見学者の思惑としては「思い出づくり」としてクンデ・ハウスの訪問を位置付けておられる場合が多く、子どもたちにとって良い影響を与えないために、このような方針とさせて頂きます。

細かな点についてまで、様々な規制を設けさせて頂いておりますが、趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

2014年は南アジア地域協力連合の首脳会議のホスト国を務めるなど、ネパールも国としての存在感を高める取り組みをしていますが、相変わらず政治は混迷し、物価の上昇は抑えられず、国民の生活は苦しいままです。ネパール政府の中国に最大限に配慮した政策はますます露骨になり、チベット難民への締め付けが格段に厳しくなりました。先行きの見えない状況のなか、ネパールで暮らすチベット難民はますます明るい未来を描くことが難しくなっています。若い世代の中には、公然とダライ・ラマ法王を批判する人もいます。

このような状況の中にあっても、正しい動機を活動の中心に据えて、やるべきことをふさわしいタイミングで責任を持って実行し、堅実にプロジェクトを推進して参りたいと思います。チベット難民にとって、本当の支援は何かを見極め、ご支援くださる皆さんと、たくさんの喜びを分かち合う事が出来ればと考えております。